

ある朝のテレビで、クイズを出していました。内容は、「草を結ぶ」の意味を問うものでした。

時どき聞く言葉ですが、日常会話で使うことはもちろん、意味もよく分かっていません。朝から頭を抱えました。CMのあと、答え合わせの時間となり、魏顆(ぎか)という親子がいた。父には妻(めかけ)がいたのだが、自身の病気がわかると息子に『自分が死んだら妻を他の家に嫁がせてやつてほしい』とたのんだ。しかし、いよいよ危篤(きとく)になろうかという時に、今度は『自分が死んだら妻も殉死させよ』と意見を変えた。

父の死後、息子は妻を他の家に嫁がせた。父の遺言は、意識のしつかりしている時の方が正しいと判断したのだろうか。いずれにしても妻にとって息子は『命の恩人』であった。

しばらくして、息子が敵軍と戦つていると一人の老人が現れ、地面の草を結び、敵はつまづき、息子は命拾いした。この老人こそ、妻の父親だったのだ

…ということで、正解は「恩に報いる」とあり、朝から「なるほど!」と膝を打ちました。

今年も報恩講、お勤めいたします。

(住職)

福泉寺寺報
令和7年12月
第138号

毎月1日発行



おて LINE



Facebook



報恩

染香
ぜんこう

「報いる」と「報じる」

さて、「草を結ぶ」：故事にある「我が娘を思う老父の姿」に少し胸が熱くなります。まさしく「恩に報いる」話でした。

ところで、ご法事などで「恩返し出来なかつた」と後悔するお声を聞くことがあります。私自身も、振り返れば後悔だらけです。

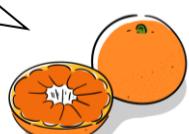
そして、ときどきモヤモヤ思うことがあります。それは、「恩は『返しきる』ことができないのか」という問題です。

ところがある日、恩を「報じる」という言葉を知り、すこし気持ちが晴れました。この言葉は「受けた恩義を胸に抱いて生き続ける」というニュアンスの意味なんだそうです。これならば、もらつた分を返す感じではなく、そのご恩の中で生きる、となります。それは、まるで昨今の「香典返し」のような、一時的な「ギブ&テイク」の感覚ではなく、生きているかぎり、私の人生に活力や潤いを注ぎ続けてくれるイメージです。

ちょっとあたまのこりほぐし

全然切れないノコギリの方が
よく切れるもの、なへんだ?

★切れる、は、切れるでも…



師走の掃除は無茶せずに…

いまさら仏教!



【十二月八日】

旧暦のこの日は、お釈迦様が「悟りを開かれた日」と位置づけ、それにちなんで多くの寺院・僧侶の間で「成道会」を勤めます。また臘月(十二月の異称)の八日に厳しい座禅週間を設ける「臘八大摂心」も行われます。

さて、お釈迦様は、

- ①苦しみの原因
- ②苦しみの離れ方

を悟られた 것입니다。その教えは、二千五百年たった今でも、ひとつも色あせることなく、むしろ「便利」と引き換えて大切なものを見失っているかもしれない私たち現代人の心に、そつと手を当ててくれるものであるに違いありません。

★23時45分

老若男女阿弥陀経

★22時

ありが灯籠

除夜会(じよやえ) 12月31日

おてらより

・「年越しどん兵衛」どうぞ
・今年の灯籠のロウソクは京都「中村祖蠟燭店」の本格的な和口ウソク!
・本堂に牛乳パック置いてありますので、今年の「ありがとうございます」を書いていつてください♥

報恩講法要 表白文（口語調）

写真 芦田側から石鎚山をのぞむ

【語句の解説】

敬つて
大慈大悲の阿弥陀如来の御前に申し上げます

本日ここに
恭しく尊前を莊厳し
懇ろに聖典を読誦して

日明山福泉寺の報恩講法要をお勤めいたします

宗祖親鸞聖人は 承安三年 日野の里にご誕生遊ばされました

御年九歳のとき 仏門に入られ

比叡の山に登り 二十年にわたつて自力聖道の修行に勤しました

しかし 生死の悩みを超えることはできず 二十九歳のとき 誰もが平等に救われる道を求めて 源空聖（法然聖人）の草庵を訪ね ついに自力修行の道を棄てて 本願他力に歸しました

その後 承元の法難に連座して 越後に流され 勅免をうけた後は関東に赴かれるなど

難難を重ねつつ 多くの念仏者をお育てになりました

わけても

『顕淨土真実教行証文類』を撰述して 浄土真宗の教義体系を確立し 京都に帰られて後は

ご老軀をおいといなく 『三帖和讃』をはじめ数多くの聖教を著し 智慧の灯を高く掲げて

人の世の闇を照らされました

しかし悲しいことに

弘長二年十一月二十八日 ついに念佛の息絶え 往生の素懷を遂げられたのであります

御年九十歳でした

それからすでに 七百有余年の歳月を経ましたが ご高徳はいよいよ輝きを増し そのみ教えはますます広がり 本願を信じ念佛するものは 国の内外に満ち溢れています

本日 この報恩講の法縁に遇つて いよいよ聞法に勤しみ もろともに 浄土への旅を続けます

ここに 金蔵坊住職 釋淳英 謹んでもうしあげます

自力聖道の修行…自分の修行の達成度によつて段階的にさとりを得る世界

本願他力…私を浄土に生まれさせるためになされた、阿弥陀如来のひとり働きの力

承元の法難に連座…「修行もなく念佛称えるのみで浄土往生すると説く宗教は邪教」として、比叡山・天皇から激しく弾圧された事件。詳細は別の機会に譲ります。

『三帖和讃』…「弥陀成仏のこのかたは…」

正信偈和讃の歌い出しへですね。漢文の經典を和語に変換して、さらに「後世の念佛者が歌えるように」七五調に整えてくださいました。全部で三百六十首ほどあります！真宗的讃美歌？

勅免…ここでは天皇の赦免。

素懷…平素から抱いていた願い。

法縁に遇つて…私たちにとつて宗教は、生まれた家、嫁いだ家によつてきめられていると認識していますが、仏さまにとつては「法のご縁でしたね」となつていています。だから、血縁なんだけれど、法縁なのです。

お願意もしていないので、阿弥陀さまは浄土を建立し、あなたを仏として迎えると、独り黙々働いておられるといいます。

「それが、わたしの務めだから…」

上の文章は、報恩講の時にお導師様（金蔵坊様）が、お経をあげる前に、尊前（阿弥陀如来さまの前）にて「この度はこのような趣旨でお勤めいたします」と述べるものです。

このような文を「表敬告白文」略して「表白文」と言います。

表白文は今回の法要に限らず、皆さまのご家族のご法事でも、私が申します。

一般的な感情からすれば、「今から真心こめてお経を読みますから、おとうさん、おかあさん、どうかいいところへ行って私たちを見守つていてください」というところでしょうか…。私たち浄土真宗においては上の表白文によつて、「阿弥陀さま、あなたがいてください」という感じであります。安心して生老病死を生きることができます。ありがとうございます。

私たち浄土真宗においては上の表白文によつて、「阿弥陀さま、あなたがいてください」という感じであります。安心して生老病死を生きることができます。ありがとうございます。



すこしだけ住職解説